



# 藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和6年7月1日 校長 竹田 聡

向暑の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、運動部は入間北部学校総合体育大会に向けて、2週間前から朝練習、大会当日のお弁当など、ご協力いただき、ありがとうございました。特に3年生は、この大会で一区切りとなるお子さんもいると思いますので、部活動を通して得たことを生活や学習に生かしたり、競技ではなく趣味として楽しんだりして、これからの生活が充実することを願っています。

7月は1学期のまとめをして、夏休みに向けて計画を立てる期間になります。夏休みを安全に過ごし、2学期間近になって課題に追われることのないように、ご家庭でもお子さんの予定に関心を持ってご協力ください。よろしくお願いいたします。

## 〈6月4日学校朝会 「無」と「微」〉

学校朝会で、私は次の話をしました。

「無」は何もない、数字で表せばゼロです。「微」は微細、微少というように、ほんの少しという意味です。「無」と「微」の下に、「力」を足すと、「無力」と「微力」になります。似ているけれど、大きな違いがあります。

例えば、体育祭の全員リレーでは、1人が50または100mを走りました。藤中の生徒数から、みんなが走った距離の合計は $100m \times 500 = 50,000m$ 、50kmになります。1人で50kmも走るのは、大変なことです。また、みなさんの清掃も $10分 \times 500人 = 5,000分 = 83.3時間(3.5日)$ になります。みなさんが、1つの目的に向かって、行動をそろえると、大きな力になります。ですから「無力」と思わずに、「微力」と考え、協力して、集団行動の質を高めてください。

では、自分1人でやり切るときはどうするのか。例えば、定期テストは50分間1人で問題を解きます。3年生は、進路決定が本格的に始まり、希望する進路先は人それぞれです。この場合は、ゴールから逆算できると、1日にやる事が決まってきます。毎日、コツコツと積み重ね、効果を実感したら続けることです。私の場合、「体力の維持には毎日6km走るべき」と言われ、18年間ほぼ毎日走っています。おかげで還暦を元気に迎えられそうです。みなさんもまずは、30日間続けてみましょう。効果があれば、続くようになります。

「微力」の使い方を考えて、藤中学校も個人もよりよくなることを期待しています。

## 〈「失敗」から学ぶ人へ〉

先月の学校だよりに、「安全基地」を紹介しました。少し具体的に説明すると、「失敗したらどうしよう」や「負けるのではないか」という不安や恐れを解消し、和らげてくれる場所になります。要は、失敗しても負けても、温かく受け入れ、批判から守ってくれる人の存在が「安全基地」になります。

失敗には、取り返しのつかない失敗とよい失敗があります。取り返しのつかない失敗の代表例は、人命に関わるような失敗です。その他に人をだましたり、あざむいたりするような悪意のある行為も、信頼関係を修復できないと思いますから、該当すると思います。私の考えるよい失敗は、次につながる失敗です。改善すれば何とかかなりそうな感覚を得たり、この方法はよくないと撤退を決断したりする失敗です。発明王のエジソンは、「失敗じゃなくて、その方法ではうまくいかないことが分かった。」と言っています。失敗は、次に生かせば貴重な経験です。

失敗の対義語は「成功」ですが、子ども達に必要なことは、「成功」か「失敗」の二択ではなく、上手くいかないから改善したり、何かを得たりする学びだと思えます。将来的に、「善敗」「得敗」「学敗」のような言葉が生まれ、世の中に浸透すれば、様々なことに挑戦しやすい状況になるのではないかと推測します。

ご家庭にお願いしたいことは、中学生は失敗から学び、成長する時期ですから、「次はどうするのか」を一緒に考えてください。「やればできる」とは「やらなければならない」とも言えます。やる気を引き出すのは簡単ではありませんが、失敗を責めたり、失敗できない状況になったりしないようにお願いします。

＜ネットトラブル 安易な正義感で加害者に＞  
インターネットによる人権侵害をテーマにした講演会を聴きました。その中で、気付かないうちに加害者になるケースの話がありました。

ネットには、事実無根のデマや噂、憶測による書き込みがあります。また、誹謗中傷やいじめと思われる書き込みもあります。それらを、リツイート(リポスト)したり、「いいね」と賛同したりすると、「加担行為」として「加害者」になった事例があります。

誹謗中傷の書き込みをした人の約13%は、誹謗中傷の自覚があり、「嫌がらせ、ストレス発散」などを理由に挙げています。それに対して、50～70%の人は、正当な批判をしているだけで、誹謗中傷の認識がありませんでした。誹謗中傷を投稿した人の特性として、「あいつが悪い、許せない」という独りよがりな正義感を持っているケースが多くあります。

ネットなどの情報に関心を持つことは、今の社会で必要なことになりつつあります。大切なことは、情報の信頼性や客観性を冷静に考えることです。その上で、情報を拡散する必要があるのか、「いいね」をクリックしても本当にいいのかを考え、行動することです。

子ども達は、「よくないのでは」と思っても、仲間はずれにされる不安から、同意を装う傾向

があります。これは、手段がネットに変わっただけで、以前からあったことです。ただし、ネットに残した記録は消えない可能性が高く、その危険性を理解することが大切です。

ネット社会は、日頃の対面社会と常識が大きく異なります。講演会では、「日常生活や学校では『人には親切にしてください、呼ばれたら返事をしてください、困っている人がいたら助ける、間違っているなら言いなさい』と教えますが、ネット社会では真逆の行動をとるべきである。基本的には、関わらないこと、無視することでトラブルを回避できる。困ったときには、保護者や先生に相談する。もし、関わりを持ってしまったら、『それ以上繰り返したら法的手段をとります』と返信し、専門機関に相談する。」とありました。ネットトラブルを相談できる専門機関は次のものがあります。

○さいたま地方法務局「人権相談」(坂戸市代田)

○総務省 違法・有害情報相談窓口

○セーフティネット協会 誹謗中傷ホットライン

便利な新しいツールが普及すれば、新たなトラブルも生まれます。インターネットトラブルに巻き込まれないために、日頃から「人権感覚の育成」と、最新のトラブル情報を参考にすることが大切です。ご家庭でも、インターネット利用について、しっかりと話し合ってください。

#### 学校総合体育大会北部大会の結果(県大会出場)

野球(駒崎と銅)3位 サッカー1位(県大会) ソフトボール(坂戸市と銅)2位 地区大会惜敗

男子ソフトテニス 団体初戦惜敗 個人惜敗

女子ソフトテニス 団体2位(県大会) 個人(県大会) 3位2ペア

男子バスケットボール3位 女子バスケットボール2回戦惜敗 バレーボール予選リーグ 惜敗

剣道 男子団体1位(県大会) 女子団体予選惜敗

個人(県大会) 女子2位 男子3位 ベスト8 2名

男子卓球 団体3位 個人単 2位(県大会) 個人複 3位(県大会)

女子卓球 団体3位 個人単惜敗 個人複惜敗

陸上競技 男子総合1位・女子総合1位 県大会出場個人種目(1種目のみ)

男子 3年100m 2年100m 1年100m 400m 800m

1500m2名 3000m 110mH 4×100mR 走幅跳 走高跳 砲丸投 円盤投

女子 3年100m 1年100m 1500m3名

100mH 4×100mR 走幅跳 走高跳 砲丸投 円盤投 四種競技

水泳競技(県大会出場)

女子800m自由形1位 女子200m背泳ぎ1位

女子400m個人メドレー2位 女子400m個人メドレー1位

女子100m平泳ぎ1位 女子200m平泳ぎ1位 女子200m個人メドレー1位

女子4×100mメドレーリレー

男子200m自由形1位 男子400m自由形1位

**お知らせ**・学割の発行には申請用紙が必要です。ホームページからダウンロードまたは事務室で受領できます。夏休み前に必要な場合、7月17日(水)までに事務室へ申請用紙を提出してください。即日発行は、対応できない場合もあります。

・「鶴っ子サマースクール」の切は7月12日(金)です。大学生のていねいな指導を受けられますので、参加にご協力ください。